

2026年3月期第2四半期 決算説明会



～人々の健康と豊かな暮らしのために～
<https://transgenic-group.co.jp>

2025年11月12日
株式会社トランスジェニックグループ

注：当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した経営計画に基づき作成しておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。また、今後の当社の経営成績及び財政状態につきましては、市場の動向、新技術の開発及び競合他社の状況等により、大きく変動する可能性があります。

I.	2026年3月期第2四半期連結決算概要	・ ・ ・ 2
II.	創薬支援事業の状況	・ ・ ・ 4
III.	投資・コンサルティング事業の状況	・ ・ ・ 10
IV.	その他財務情報	・ ・ ・ 14
V.	2026年3月期連結業績予想	・ ・ ・ 16
VI.	その他	・ ・ ・ 18

A large, light blue circular arc with two smaller orange circles inside it, positioned behind the main title text.

I . 2026年3月期第2四半期連結決算概要

当第2四半期連結業績は、創薬支援事業の増収、投資・コンサルティング事業の堅調な推移を受け、売上高が微減の中、損益は大幅に改善し黒字転換。

●創薬支援事業

前年同期比で16.3%の増収。事業運営合理化によるコスト削減で損益は1億円強の大幅な改善。

●投資・コンサルティング事業

前年同期比で4.0%の減収だったが、価格交渉等による粗利率改善等により27.8%の大幅な増益。

売上高 6,224百万円 前年同期比 $\triangle 87$ 百万円

前年同期	6,311百万円	$\triangle 1.4$ %	$\triangle 87$ 百万円
創薬支援事業	937百万円	+16.3 %	+131百万円
投資・コンサルティング事業	5,290百万円	$\triangle 4.0$ %	$\triangle 218$ 百万円
本社・連結調整	$\triangle 3$ 百万円	- %	0百万円

経常利益 83百万円 前年同期比 **+239**百万円

前年同期	$\triangle 156$ 百万円	- %	+239百万円
------	---------------------	-----	---------

営業利益 71百万円 前年同期比 **+182**百万円

前年同期	$\triangle 110$ 百万円	- %	+182百万円
創薬支援事業	$\triangle 75$ 百万円	- %	+113百万円
投資・コンサルティング事業	245百万円	27.8 %	+53百万円
本社・連結調整	$\triangle 98$ 百万円	- %	+15百万円

親会社株主に帰属する

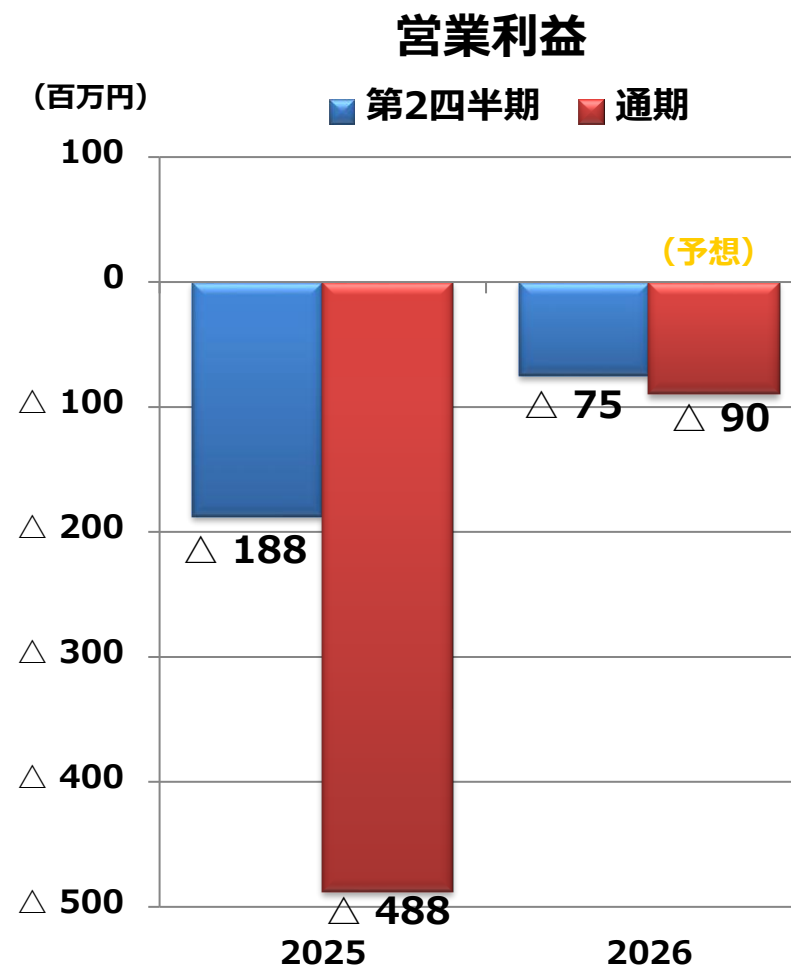
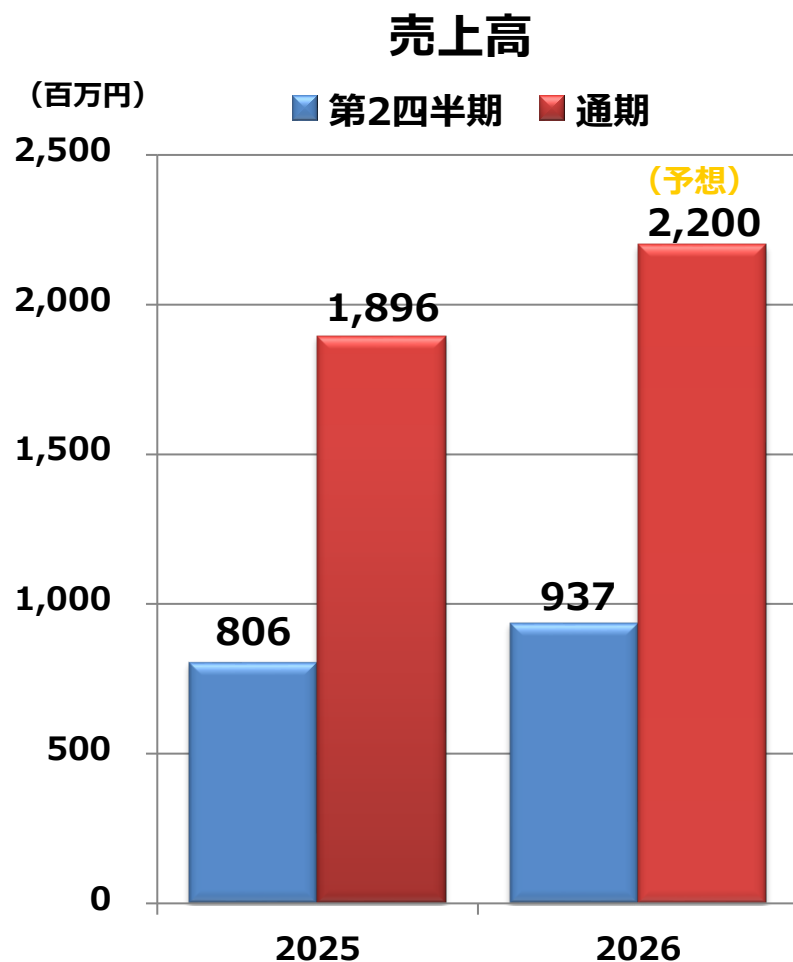
中間純利益 29百万円 前年同期比 **+211**百万円

前年同期	$\triangle 182$ 百万円	- %	+211百万円
------	---------------------	-----	---------

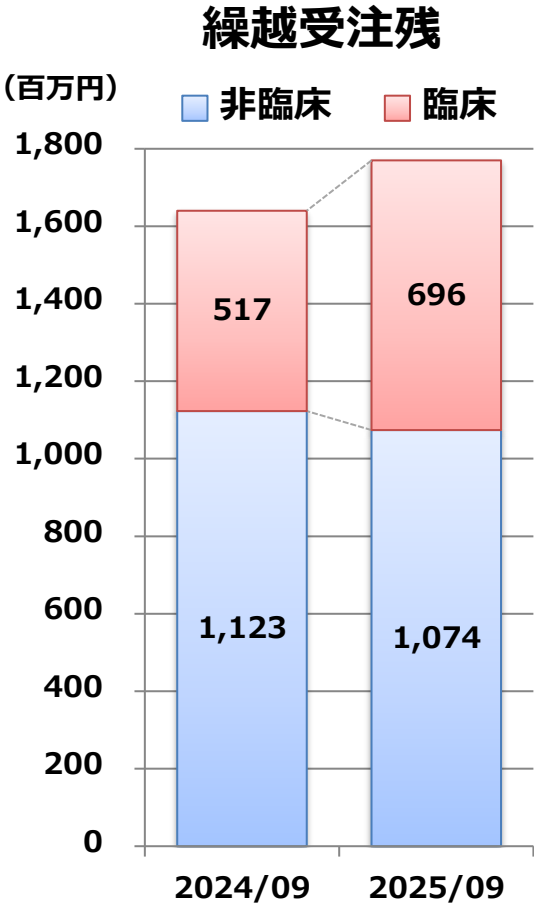
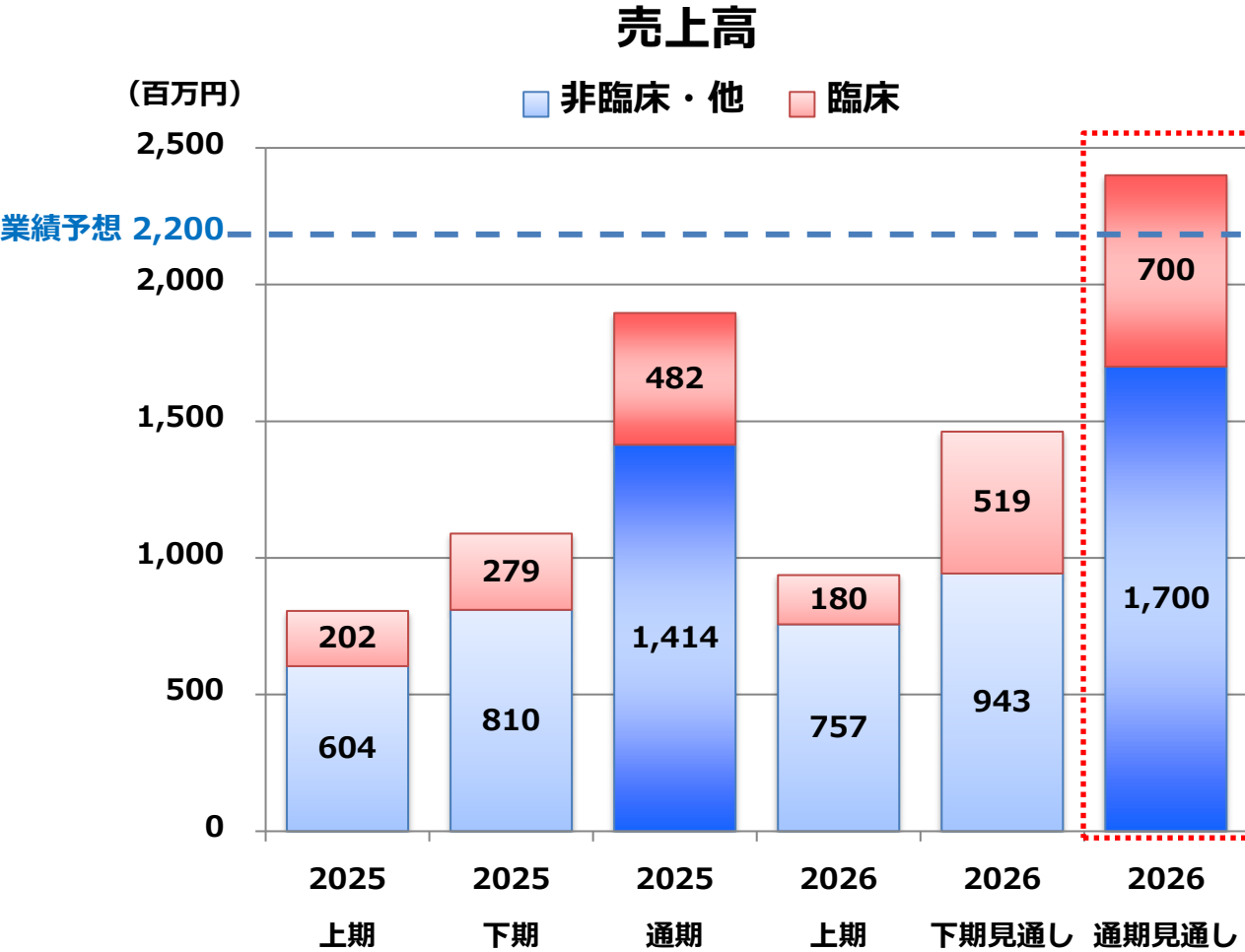


Ⅱ．創薬支援事業の状況

- 前期からの繰越受注試験を予定通り完了し前年同期比で16.3%の増収。事業運営の合理化による費用削減の結果、前年同期比で損益は1億円強の大幅改善。
- 通期計画へ向けて足元は計画を上回る進捗で推移（次頁参照）。



- 上半期に続き下半期も前年同期比で売上増の見通しである。この結果、通期売上高は前年比で約5億円前後、予算比で約2億円前後の、大幅な増収見通しだが、期ズレ及び試験中止のリスクを勘案し通期売上高予想は据え置きとする。



業務提携拡大に関するお知らせ 当社連結子会社(株)トランスジェニック × (株) エーセル

●提携の目的

非臨床試験 × ヒト細胞評価による統合型評価体制の構築

“ヒト細胞 × 動物モデル”で、精度・倫理・スピードを実現する新評価プラットフォーム

●両社の強み



	(株)トランスジェニック	(株)エーセル(ACEL)
評価モデル	in vivo (動物モデル)	in vitro (ヒト細胞)
技術特徴	疾患モデル動物 / 遺伝子改変モデル	オーダーメイド試験系構築 / 動物代替技術
対象	医薬品 / 農薬 / 化学物質 / 食品	医薬品 / 化粧品 / 食品
特徴	高い再現性と臨床に近い生体評価	人体関連性の高いデータと柔軟な技術開発

●提供価値 / 期待効果

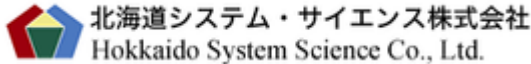
予測精度向上	in vivo × in vitro統合で高精度評価
臨床接続	初期段階から臨床計画と連動
3Rs推進 (倫理)	動物使用の最小化・代替技術の活用
開発効率化	開発期間の短縮・コスト最適化
領域拡大	医薬品・食品・化粧品・農薬まで対応領域拡大

業務提携に関するお知らせ
当社連結子会社(株)トランスジェニック × 北海道システム・サイエンス(株) (HSS)

●提携の目的
核酸医薬の開発を合成～臨床まで一気通貫で支援し、研究開発を加速

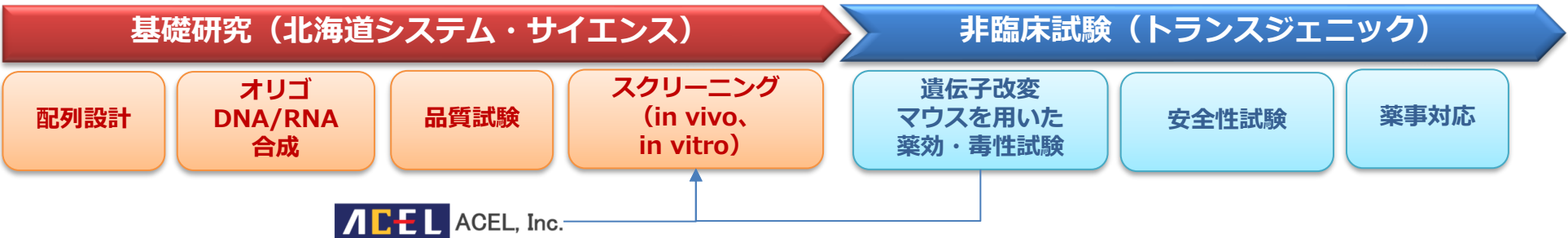
※ACELのヒト細胞を用いたin vitro試験とトランスジェニックが強みとするヒト化マウスを用いたin vivo試験は人の遺伝子（mRNA）に働きかける核酸医薬品の開発に重要な役割を果たします。医薬品開発におけるサルからTGマウスへの転換期に、トランスジェニックはHSSとACELとともに時代の流れをつかみます。

●両社の強み



	(株)トランスジェニック	北海道システム・サイエンス(株)(HSS)
役割	非臨床試験（特に遺伝子改変動物）	核酸合成・解析
強み	- 薬理/毒性試験（GLP対応） - 創薬支援プラットフォーム - 臨床支援体制	- オリゴDNA/RNA合成 - 分析・精製 - 配列設計～評価一貫対応
提供価値	✓作用機序/安全性の早期評価 ✓PoC取得を加速	✓少量合成～治験向け体制 ✓新規案件創出

●支援プロセス（開発フロー）



— 遺伝子改変動物を核とした新たな非臨床評価体系の確立 —

● 目指す姿（Vision）

「分子・細胞・個体の知を統合し、科学的妥当性と倫理的持続性を両立する、非臨床評価の新基準・システムを創出」

● TGの強み（Strength）

- ・ 遺伝子改変マウスを活用した **in vivo薬理・毒性試験（GLP対応）**
- ・ rasH2短期発がん性試験・中期発がん性試験の進化・高度化
- ・ サル試験代替が可能な“ヒト相関性”の高いモデル動物の開発



● 協議中スキームの全体像（Image）

1. 核酸合成・CMC支援（HSS）
2. ヒト細胞を用いたin vitro薬理評価（ACEL）
3. **TG：ヒト型マウスを用いたin vivo 薬理・毒性試験**
4. 統合評価（ICH S6(R1)準拠・PMDA等の当局対応）
⇒ サルを使わず、分子～GLP毒性まで一貫した評価を可能に



核酸医薬だけでなく抗体医薬、再生医療分野など、ヒト特異性薬剤への適用拡大

● 期待効果と社会的インパクト(Project Impact and Social Impact)

- ・ 科学的信頼性：ヒト外挿性の高い非臨床データの創出
- ・ 倫理的正当性：サルを用いない動物実験体系を確立
- ・ 産業的重要性：核酸・抗体・再生医療分野の非臨床試験基盤を支援



背景（市場及び機会）

- ・ ICH S1B(R1)により短期発がん性試験の国際的需要が拡大
- ・ サル実験制限の潮流（EU/日本学術会議方針）
- ・ 核酸医薬・抗体医薬の非臨床課題＝「ヒト特異的薬理作用をどう検証するか」→TGが持つヒト化マウス技術が転換点となる

顧客層	提供ソリューション	期待される効果
アカデミア・スタートアップ	IND取得and/or導出対応パッケージ	データー貫化・早期申請and/or導出支援
バイオベンチャー	TG動物＋免疫毒性＋デリバリー評価	コスト・期間を削減
製薬企業	サル代替評価プラットフォーム	科学的信頼性＋倫理対応

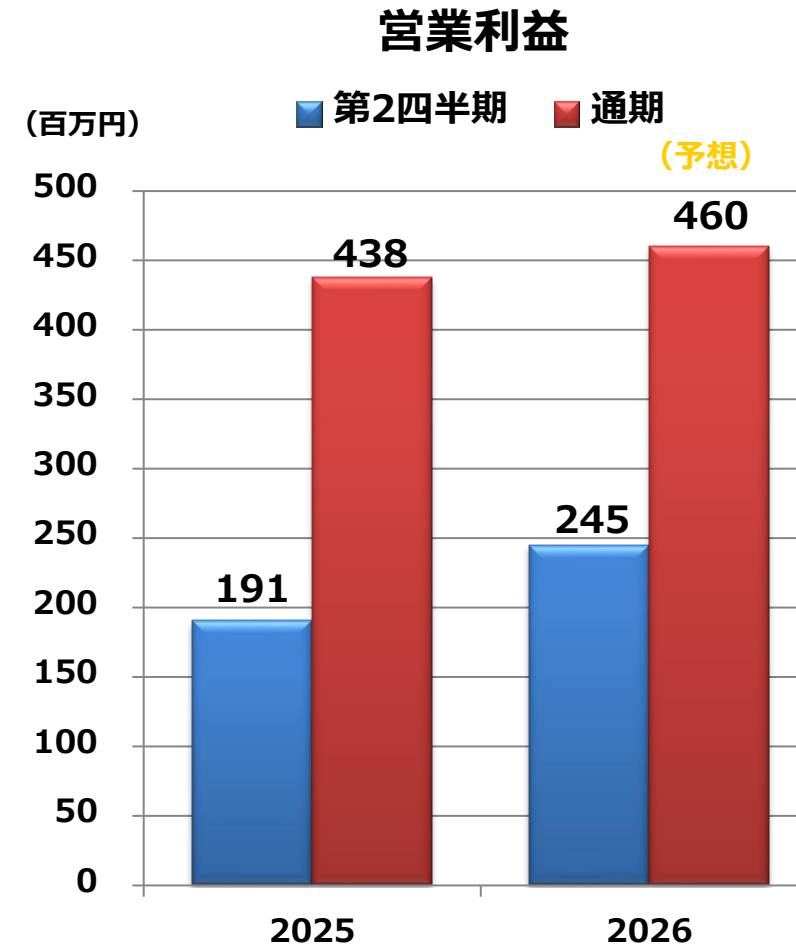
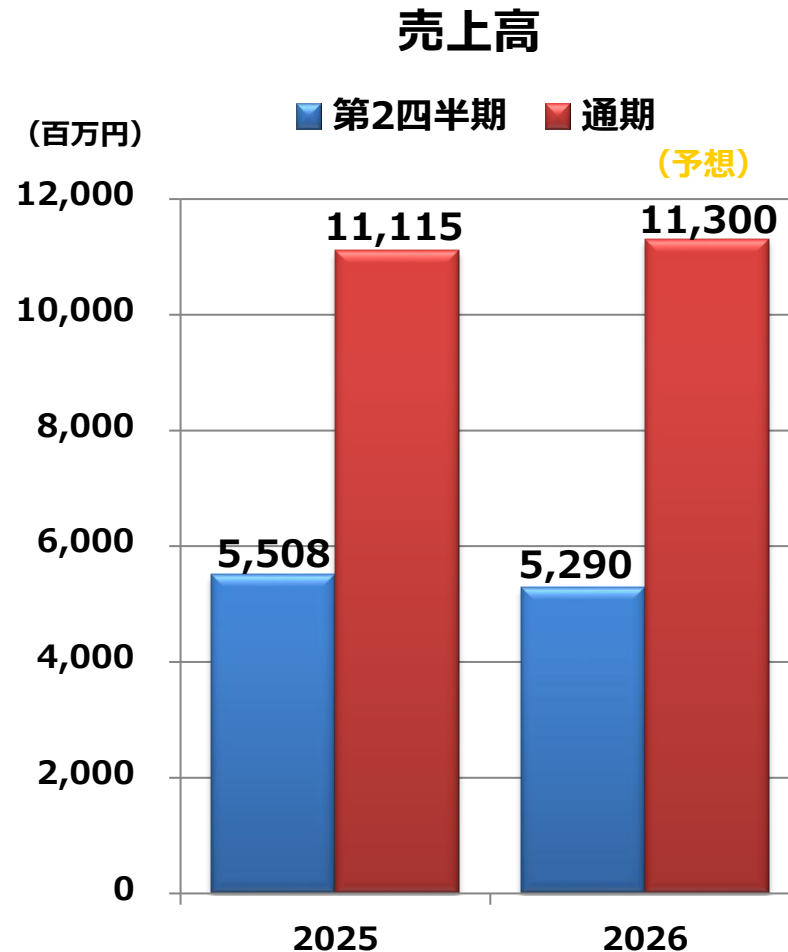
今期売上予想22億円の創薬支援事業を、今後3か年で、TG社を中核に売上30億円規模まで拡大させ、以降も持続的成長を実現

「科学的評価の創出企業」への転換を行い、社会・産業・科学が求める存在に

A large, light blue, stylized circular graphic with two orange circles inside, positioned behind the section header text.

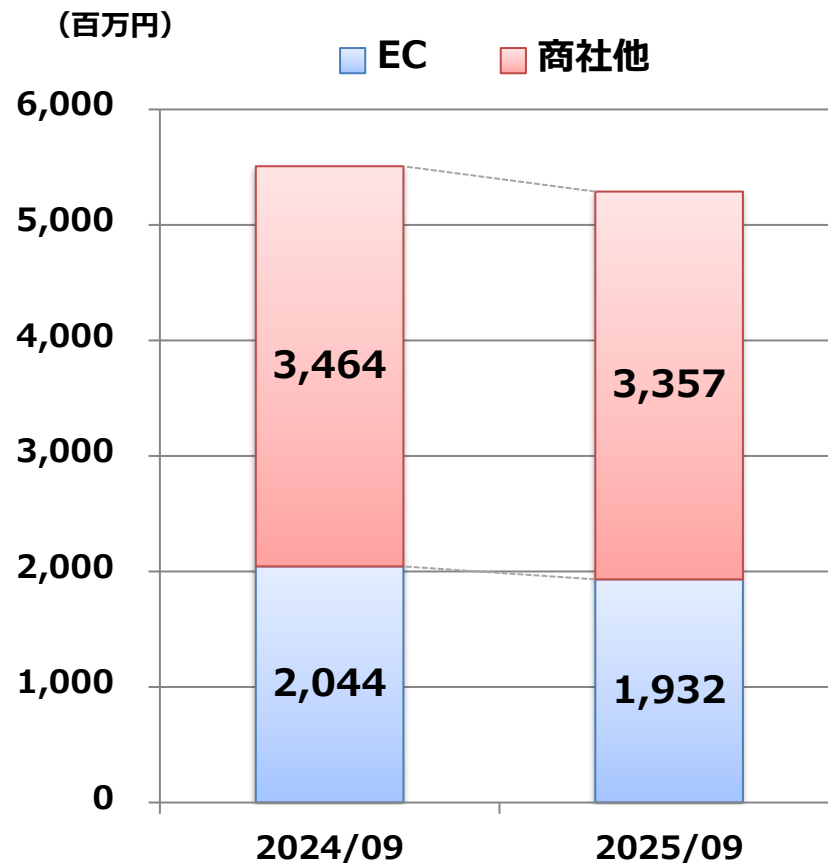
Ⅲ. 投資・コンサルティング事業の状況

- 消費マインドの低下によりEコマースによる小売販売を中心に苦戦し全体で4.0%の減収となったが、営業利益は商社事業・その他の事業の粗利率改善でカバーし、前年同期比で27.8%増の大幅な増益。
- 商社事業においては下半期に大口案件の納品が集中しており、通期予算達成へ向けて第2四半期は概ね計画通り進捗。

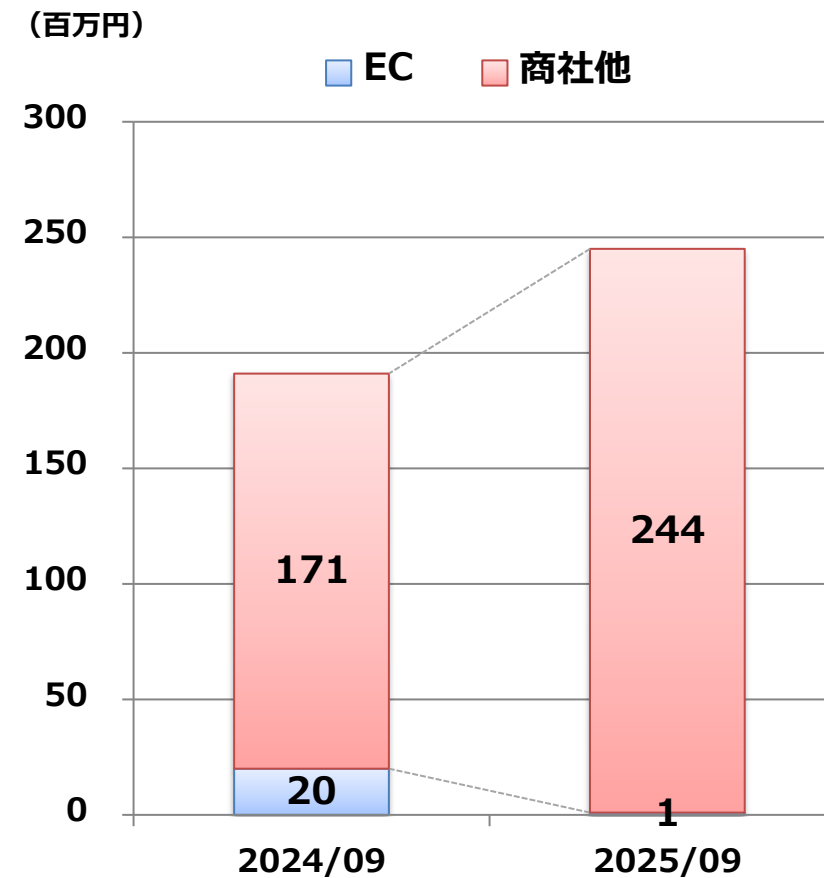


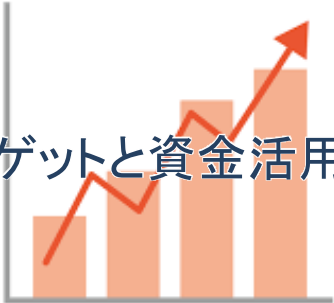
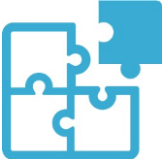
- EC： 持続的物価上昇を起因とする消費マインド低下により売上確保に苦戦し、前年同期比で減収減益。
- 商社他： 売上高は微減だったが、価格交渉による利益の確保に注力した結果、前年同期比で大幅な増益。

売上高



営業利益



1.基本方針 	- ニッチ産業への事業承継型M&Aを基軸とし、各事業体の自走とキャッシュ創出を両立。 “分散リスク型”投資ポートフォリオにより、安定成長を実現。
2.中期ターゲットと資金活用 	2025年 事業モデルは確立済であり、投資先について引き続き探索中 2026年 投資先拡大に備え人員増員を行い、借入等で調達した資金を元に投資を実行 2027年 「時価総額100億円相当のセグメント価値」を実現する成長性と利益を実現
3.差別化戦略 	- 各事業が独自の競争優位性（独自商流、高回転在庫体制、技術連携体制）を保有 - M&A後のPMIを通じてグループとしての統合効果を最大化
4.リスクと対応 	- 市況変動リスク → 事業分散で吸収 - EC競争激化 → 直販・在庫回転強化で対応 - 素材高騰・規制対応 → 仕入元連携とエコ素材活用



IV. その他財務情報

2026年3月期第2四半期連結決算：連結キャッシュ・フロー

創薬支援事業及び投資・コンサルティング事業の両事業において、下半期納品予定案件の増加により、製・商品及び仕掛品残高が増加し上半期の営業活動によるキャッシュ・フローはマイナス。

単位：百万円	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	主な内訳
営業活動による キャッシュ・フロー	△421	△568	△147	●営業C F 税金等調整前中間純利益 56 商品及び製品の増加額 △418 仕掛品等の増加額 △97 前受金の減少額 △78
投資活動による キャッシュ・フロー	△174	△35	138	●投資C F 有形固定資産の取得による支出 △22
財務活動による キャッシュ・フロー	378	261	△117	●財務C F 短期借入金の増加額 395 長期借入れによる収入 120 長期借入金の返済による支出 △272
現金及び現金同等物の増減額	△221	△343	△122	
現金及び現金同等物期首残高	2,466	2,541	75	
現金及び現金同等物中間期末残高	2,244	2,198	△46	



V. 2026年3月期連結業績予想

通期連結業績は、計画に比して上振れで進捗しておりますが、創薬支援事業については、期ズレ及び試験中止のリスクを、投資・コンサルティング事業については、為替動向等の経済環境変化の影響を勘案し、業績予想につきましては、現段階では据え置きとさせていただきます。

単位：百万円	2026年3月期 (通期業績予想)	2026年3月期第2四半期 (実績)	進捗(%)
売上高	13,500	6,224	46.1
創薬支援事業	2,200	937	42.6
投資・コンサルティング事業	11,300	5,290	46.8
本社・連結調整	—	△3	—
営業費用	13,350	6,153	46.1
創薬支援事業	2,290	1,012	44.2
投資・コンサルティング事業	10,840	5,045	46.5
本社・連結調整	220	95	43.2
営業利益	150	71	47.3
創薬支援事業	△90	△75	—
投資・コンサルティング事業	460	245	53.3
本社・連結調整	△220	△98	—



VI. その他

上場維持基準への適合に向けた計画に基づく進捗状況

当社は、基準日時点におけるグロース市場の上場維持基準への適合状況は「時価総額」について不適合の状態となっております。東京証券取引所グロース市場における上場維持基準への適合に向け、企業価値の向上により「時価総額の向上」を図ることを基本方針とし、「株価向上」を目指して、各取り組みを進めており、現時点の進捗状況は以下のとおりです。

①業績向上

取組内容（創薬支援事業）	・ 価格、研究開発の見直しによる採算性向上、及び適正な人員体制への移行 ・ 新規サービス（中期及び短期発がん性試験）導入 ・ 各社の強みを活かした核酸医薬開発支援体制構築を目的とした業務提携
進捗	・ 連結売上高6,224百万円（前年同期比1.4%減） 連結営業利益 71百万円（前年同期比182百万円改善） ・ 創薬支援事業：前年同期比売上16.3%増、営業損益113百万円増 ・ 投資・コンサルティング事業：前年同期比売上4.0%減、営業利益53百万円増加

②株主還元の強化

取組内容	・ 有配体制整備のための業績の着実な向上
進捗	・ 第3四半期以降も業績を着実に改善し、早期復配を目指します

③IR活動の強化

取組内容	・ 情報発信の強化：「質」と「量」の両面で強化
進捗	・ 四半期毎の決算説明動画配信実施 ・ プレスリリースによる発信：「「エクソンヒト化マウス」日本および欧州にて特許成立」「(株)イーセルとの業務提携拡大」「日本クレア（株）及び（公財）実中研とのrasH2 マウスを用いた短期発がん性試験に関する共同研究」「北海道システム・サイエンス(株)との業務提携」

④その他

取組内容	・ グロース市場への上場維持基準への適合を目指しつつ、他市場への重複上場を検討
------	---



～人々の健康と豊かな暮らしのために～

<https://transgenic-group.co.jp>